



わたしたちの  
市民向けアドボカシー活動  
～ヘルスケアの未来のために～

アステラス製薬株式会社  
アドボカシー部 部門長  
福士 納

2026年3月19日  
第25回日本再生医療学会総会 企業展示会場特設ステージ企画



## 注意事項

本プレゼンテーションは情報提供のみを目的としており、宣伝広告、医療的アドバイスまたは法的アドバイスを目的とするものではありません。

本プレゼンテーションに開発中の化合物・医療機器等に関する情報が含まれる場合、それらの情報は、その化合物・医療機器等の確立された安全性や有効性を示唆するものではなく、開発中の化合物・医療機器等が承認を受けることや、開発中の用途で上市されることを保証するものでもありません。

発表者は、アステラスに雇用されている従業員です。特に明記されていない限り、発表者の雇用主であるアステラス、またはその子会社および関連企業の意見や立場を必ずしも反映するものではありません。

# アステラスのVISION

## VISION

変化する医療の  
最先端に立ち、  
科学の進歩を  
患者さんの「価値」  
に変える

持続的な成長のために  
最先端のサイエンスを追求し、  
患者さんに「価値」をもたらす医療  
ソリューションの創出を目指す

# ドラッグ・ラグ／ドラッグ・ロスの現状

**ドラッグ・ラグ:** 海外で使われている新薬が、日本で承認されて使えるようになるまでに時間差が生じる状態  
**ドラッグ・ロス:** 海外で使われている新薬の開発が日本で行われず、使うことができない状況

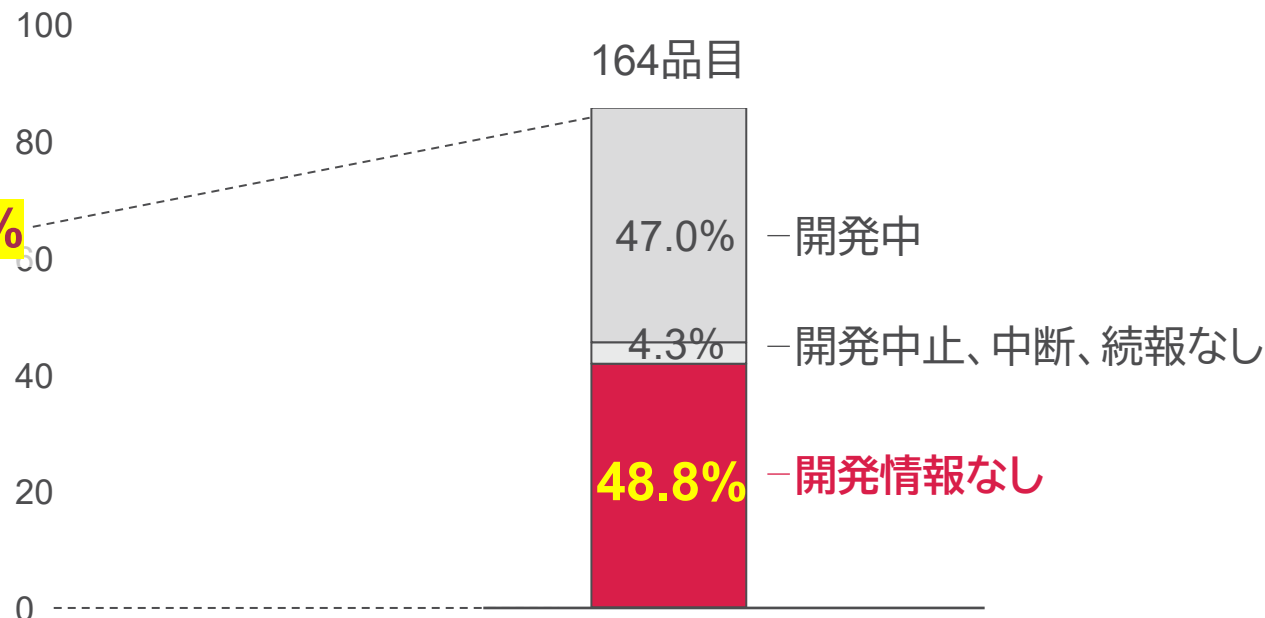
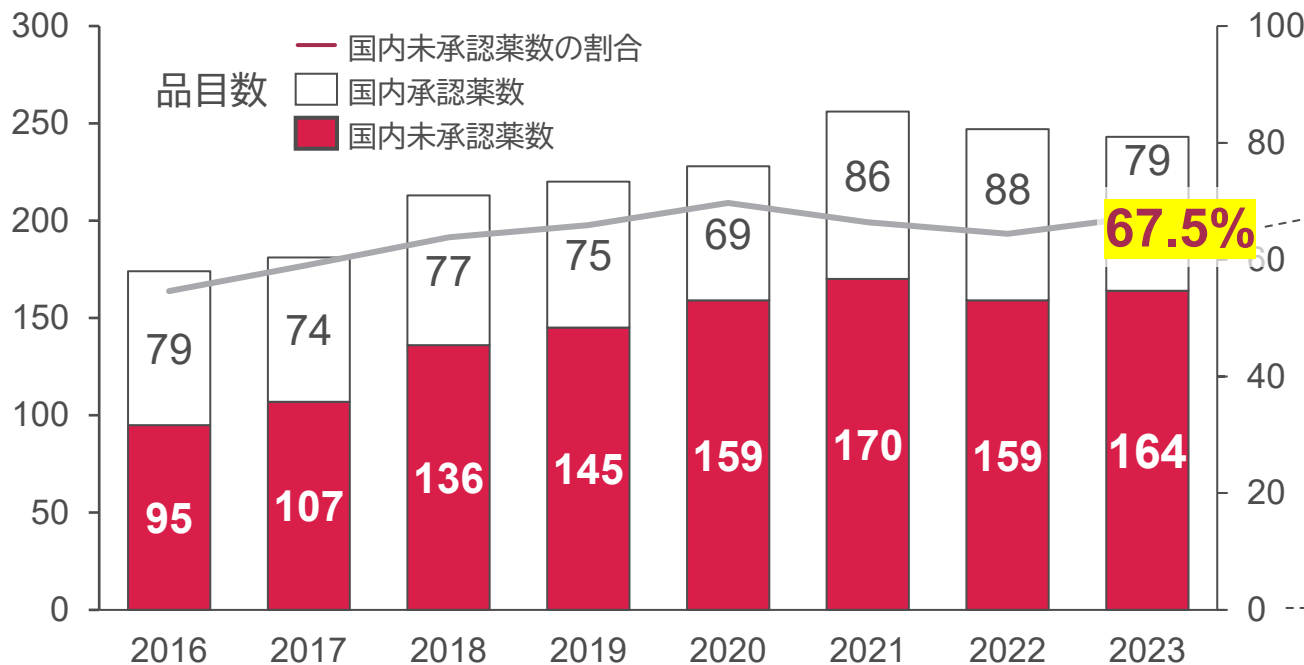
2016年以降、国内未承認薬は割合増加し、近年は高止まりしている  
 必要な治療が必要な人に届かないドラッグ・ロスが懸念される状況となっている

米国で承認された新有効成分含有医薬品のうち国内未承認薬が占める割合

2023年末時点 国内未承認薬の国内開発状況

直近5年間に米国で承認された医薬品の67.5%が国内未承認

そのうち約半数は国内開発に至っていない



※各年の総数はその年の時点での直近5年間の米国で承認された新有効成分含有医薬品数  
 出所: PMDA、FDAおよび「明日の新薬(テクノミック制作)」公開情報をもとに作成  
 出典: 医薬産業政策研究所 政策研ニュース No.72「国内未承認薬の最新動向」(2024年7月)をもとにアステラスにて作成

# アドボカシー活動とは？

社会制度や規制をより良い形に進化させていくために  
ステークホルダーとの対話や協働を通じて  
認知・理解・共感の輪を広げていくこと ※

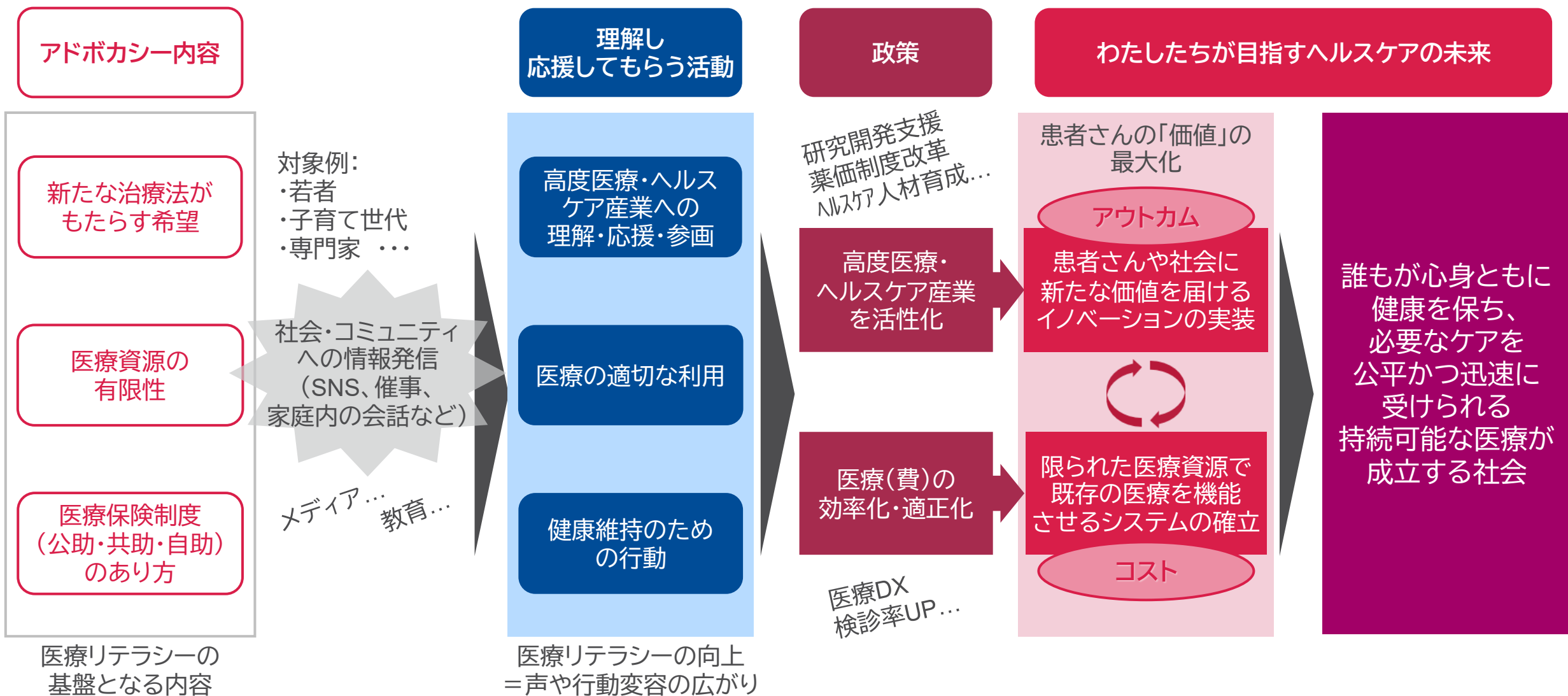
(※アステラス アドボカシー部の解釈)



市民の医療リテラシー向上にもつながる！



# わたしたちのアドボカシー活動 ～持続可能な医療の実現に向けて～



# 市民向けアドボカシー活動 - 様々な挑戦から得られた多くの学び

- ✓ 市民への情報提供の工夫(薬機法※の広告規制を考慮)
- ✓ 従来のマスメディアを使った広報活動の限界
- ✓ 市民公開講座の難しさ
- ✓ インフルエンサー活用の難しさ



<学び> 相手と真摯に向き合って対話する  
信頼する人から聞いたお話は、信頼してくれる人に伝播する  
この繰り返しにより、適切な情報を必要とする人へ届けることができる

※薬機法: 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」

# わたしたちの市民向けアドボカシー活動 ①医療のエコ活動

医療のエコ活動の社会普及に向けて  
医療産業都市を中心に、各地ならではの  
多様なステークホルダーとともに推進

**「医療のエコ活動」**  
限りある医療資源※を大切にし、  
“国民一人ひとりが医療に優しい活動”  
を行うこと

※医療資源: 「ヒト」医療従事者、  
「モノ」医療機器・くすり、  
「カネ」財源などを指す



千葉・柏: イベント  
by 三井不動産

千葉・柏: シンガーソング  
ライターによるコンサート

徳島: 高校での授業



明治安田との協業に  
関するプレスリリース  
(3/18付)



川崎: ラジオ番組に医師会の先生登壇



つくば: 環境エコフォーラム出展



徳島: 県知事との対談



健康を維持すれば欠かせない人に届きやすくなる

**医療のエコ 踏み出そう**

9・10日 南区で催し

「無限」は誤解 行動変容を

京都: 同志社大学  
瓜生原研究室との協働



京都: 超ECO祭共催



川崎: 市民団体ミライアル  
による音楽絵本コンサート



川崎: 専修大学生×明治安田  
@プロサッカーチームイベント

鳥取: 鳥取大学病院  
市民啓発冊子での特集

# わたしたちの市民向けアドボカシー活動 ②最先端の治療法に関する情報提供

再生医療を含む最先端の治療法に関し  
信頼性が高くわかりやすい情報を、  
多様なステークホルダーと共創・発信

アレクシオンファーマ×Blue Lab  
×日本医療政策機構  
難病シンポジウム開催



イベントにおける常葉大学造形学部  
学生によるグラフィックレコーディング  
(大学教授の賛同を得て協働)



神戸大学におけるリーダーシップ開発  
プログラム((株)イノベストと協働)



みずほ銀行  
講演

学生アンバサダー  
自らが制作した  
資料を用いて⇒



「日本で最先端の治療法が  
1日でも早く継続して届く  
社会の実現」を  
目指すプロジェクト※

※プロジェクト運営企業:アステラス

最先端の治療法がもたらす可能性のある価値			
<b>QoLの向上*</b> 生涯にわたってQoL (Quality of Life) 身体と心が良好な状態を維持し続けること。	<b>家族の負担軽減*</b> 家族も身体的、精神的負担が少なくなる(QoLが高くなる、病状の進行がゆるくなる)。	<b>成長・発達*</b> 治療により、人と同じように学校や社会に参加しながら成長できる。	<b>完治の希望*</b> わずかな人数としても完全に治るなど、大きな効果を期待できる。
<b>費用の軽減*</b> 通病や治療、介護に伴う費用が安くなる。	<b>労働生産性向上*</b> これまで働けなかった人が働けたり、仕事のパフォーマンスが上がる。非労働者も働けるようになる。	<b>医療の進歩向上*</b> 治療選択肢が増えて治療がカバードできる治療が増える。病状の進行や悪化を防ぐことができる。	<b>アンメットニーズの解決*</b> 適切な治療がない疾患層の医療を改善することはすでに急務である。薬量よりも重要である。
<b>不確実性の軽減*</b> 事故の発生によって薬の価格や副作用の予測精度が上がれば、不確実性が軽減される。	<b>新たな選択肢の出現*</b> 治療により寿命が延びた際に、さらに高い治療法が開発される可能性がある。	<b>科学的波及効果*</b> 革新的な治療が発見できれば従来のより効果の高い治療の発見・開発につながる。	<b>アンメットニーズの解決*</b> 適切な治療がない疾患層の医療を改善することはすでに急務である。薬量よりも重要である。
<b>病気の重症度の考慮*</b> 重い病状や命に関わる病状の医療の優先順位をあげるべき。	<b>希少性の考慮*</b> 患者数が少ない病状の人には、一般的な病状の人よりも、優先順位をあげるべき。	<b>公平性の考慮*</b> みんなが平等に治療を受けられるだけでなく、社会的に弱い立場の人は、治療の優先順位をあげるべき。	<b>アンメットニーズの解決*</b> 適切な治療がない疾患層の医療を改善することはすでに急務である。薬量よりも重要である。

最先端の治療法の価値に関して  
薬剤経済学専門家と協働



Innovation for NEW HOPE学生アンバサダー  
(資料制作プログラムに参加)



茨城大学教育学部での授業  
(大学教授より機会提供)



流通経済大学附属柏中学校  
での授業(中学教諭より機会提供)



ショッピングモールでの  
ブース出展

Innovation for NEW HOPE委員(6名)



日本難病・疾病団体  
協議会(患者団体)  
代表理事



自治医科大学  
教授(小児科医)



CSRプロジェクト  
(患者団体)  
代表理事



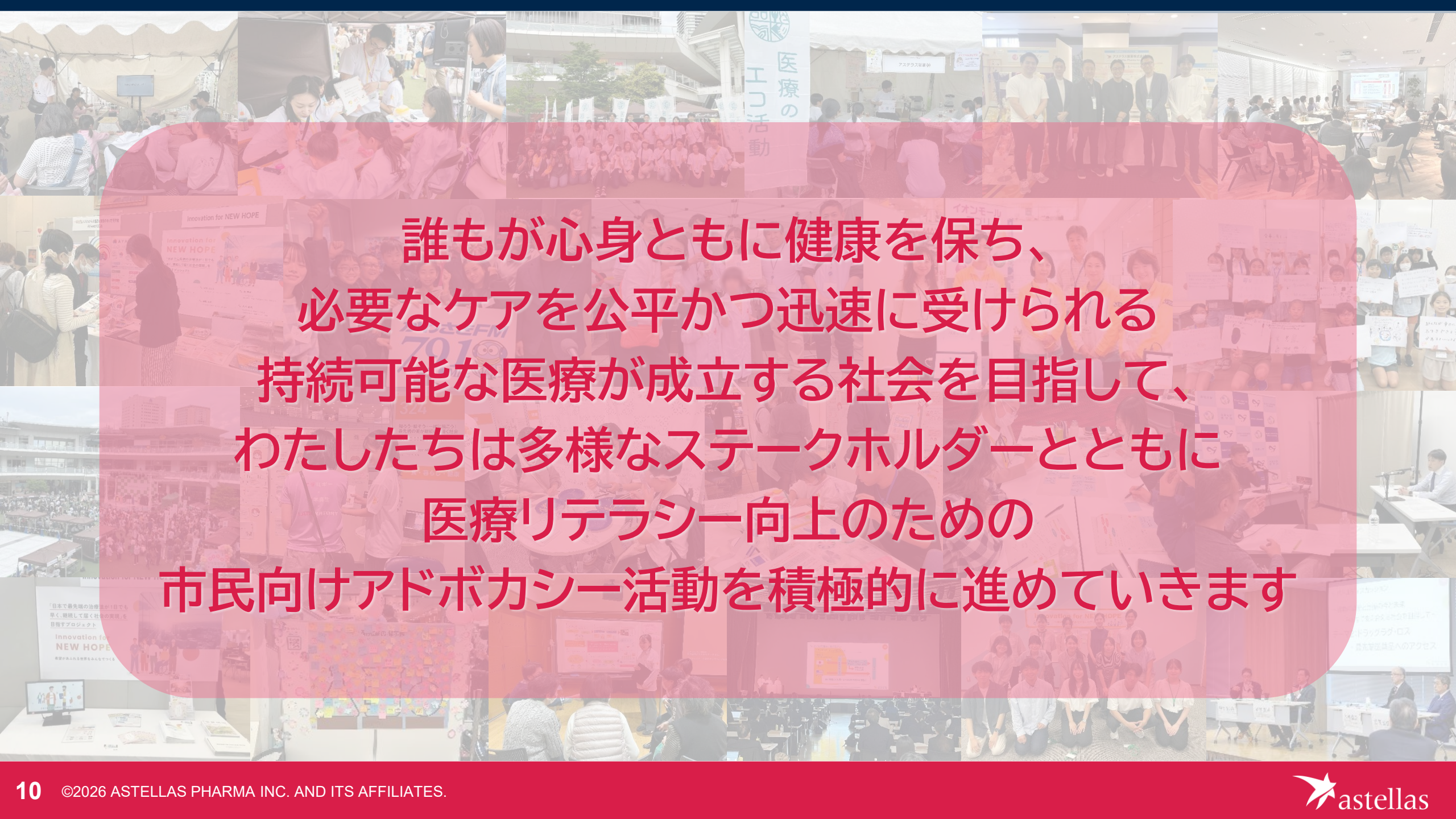
東京大学医科学研究  
教授



東京科学大学  
特別教授(小児科医)



藤田医科大学  
教授



誰もが心身ともに健康を保ち、  
必要なケアを公平かつ迅速に受けられる  
持続可能な医療が成立する社会を目指して、  
わたしたちは多様なステークホルダーとともに  
医療リテラシー向上のための  
市民向けアドボカシー活動を積極的に進めていきます